

科学倫理 「医師の目から見た科学倫理」 事後記入 2021.12.17(金)

活動の記録	リテラシー	コンピテンシー	どんな場面でその力を伸ばせるか
何よりも患者の意思表示が大切にされているというところに、医療の頼もしさを感じた。もし自分が患者側になったとしても、どのような手順をおって、説明されているのかを理解した上で、対応できるようにしていきたいと思う。医師の殺人罪による起訴は、複雑なものがあったが、何よりも人命が大切にされていることが伝わってきた。			
インフォームド・コンセントで十分に説明して同意することは必要なことだと思った。自分自身も手術するときに選択肢がいくつかあり、自分が納得するものを選ぶことができた。また、安楽死に関しても、積極的安楽死は殺人と何ら変わりがなくなってしまう、これを認めるのは難しいと思う。クローン人間には興味はあるが、自分が何人も存在してしまうのは、不都合が多いと思う。			
インフォームドコンセントの大切さ。幼い子供に対してもしっかりと病気について伝えること。倫理と道德のジレンマ。倫理をとってしまうと、人が病で苦しんでいるところを見るだけになってしまう。また、道德をとってしまうと、“殺人”とレッテルを貼られて法律で裁かれてしまう。日本の法律に従うしかないのが今の段階では、苦しんでいる、または植物人間を、ただ見ているだけしかできないつらい状態に耐えるしかない。	情報分析力	課題発見力	先生が言っていたことをふまえて今ある問題を見つけるとき。
阪神淡路大震災のような大規模災害で医師は混乱しそうですが、インフォームド・コンセントで患者にどのような状況で何をしなければいけないのかを説明し、同意を得なければならなくて大変だなと思いました。途中、人生会議という話があり、自分はまだ若いので死んだ後の話はまだ遠いと思っていましたが、自分が望むような死に方で死ねることができるのは30%のみという記入を見て、今からでも考え始めるのは早くないんだなと思いました。また、ALS患者の囑託殺人のニュースを聞いて安楽死の現状を知りました。		課題発見力	今の生命倫理の現状
人間の生死に関連する医療という行為における倫理観について学ぶことができた。医療は生命に直接関わるので、そこにおいては厳格な倫理があるのだと知った。治療の際は、インフォームド・コンセントが必要であり、治療を受ける患者は医者から治療方法の説明を聞く。この際、患者はほとんどの場合、治療の専門的な知識を持たないことが多いので、医者はそのような患者に治療の説明を行う。医者に必要な力は知識、手際の良さもそうであるが、人にわかりやすく説明する能力もその1つであると思った。	情報収集力・情報分析力・課題発見力		医学倫理の知識を得て、医師に必要な力が何であるかに気が付いたとき。
とても興味があるテーマだったのでおもしろかったです。インフォームド・コンセントの大切さやどのようにして行われるのかなど具体的にたくさんのことを学ぶことができました。ALS患者についても安楽死や尊厳死の問題など非常に考えさせられるようなことばかりでした。私も1人の人間としてどうするべきなのかもう一度考えてみようと思います。	課題発見力		話をきいているとき。

今日の様々な技術が発展している社会では、医療も発展しているが、同様に人々の心も変わっていて、単に長生きするだけではなく、どのように人生をするかという現代らしい悩みになっていると分かりました。今はまだ高校生なので、人生の終わりなんてあまり考えないけど、終末期に近づくとそういうことを考えるようになるので、医師は患者によりそうことが新たな仕事になると思いました。	情報分析力		講演
科学倫理は意見が分かれる微妙なところもあるので難しいなと感じました。特に医療では人の死がかかわってくるので難しい話だと思うけれど、その決断は誰かがしないといけないわけで医者というのは苦しいものだなと思いました。やはり、ここで必要になってくるのは決断力で、しっかり考えて決断することが大事になってくると思いました。		感情抑制力	講演をきいて
インフォームド・コンセントに患者を誘導する目的もあったことを知った。科学倫理とかも変わっている中で、過去の判例とかとの矛盾はどうするか気になった。質問によって学を深めることができた。	情報収集力・情報分析力・課題発見力		講義内容を考察するうえ
医療の場において、患者と常にコミュニケーションをとり、そのつど対応することが大切であると学んだ。現在、日本では積極的安楽死が認められていないが、医の倫理が時代とともに変化していくように、いつか安楽死が認められる日が来ると思った。また、患者本人の意志で死を望んでいても、自由にできないので、少しもどかしい気にもなった。	情報収集力	協働性・感情抑制力・課題発見力	先生の話のきいて、安楽死について考えるとき。
化学班の研究で、ちょうど倫理委員会を通したり、インフォームド・コンセントのための書類を作ったりしなければいけないという話がでていたころだったので、今回の講義はすぐに役立てることができそうだなと思った。			
トリアージの件のことは知っていたけれど、黒の札をちぎるのはつらいだろうなと思いました。尊厳死や安楽死などには私は賛成ですが、やはり本人の意志が大切だなと思いました。ICの話では、医師が患者におすすめの治療法を強調するのはどうかと思いました。			
医療では患者の意思を尊重することが大切であることを知った。その一面積極的安楽死が認められていないのは、医師も患者も苦しいのではないかと考えた。今後は、今までとは違う、バイオテクノロジーに伴う新たな問題が出てくると思う。	情報分析力		
インフォームド・コンセントについての知識が深まった。今後自分の身に何がふりかかるか分からない。だから、『人生会議』を自分もするべきだなと思った。自分は60歳までは生きたいけども、60歳を超えた後に重い病気にかかったら死んでもいいのではと思ってしまう。しかし日本では積極的安楽死が認められていないのは、考え深いところだ。	情報収集力・情報分析力	課題発見力	授業

まず最初に驚いたのが、「BE KOBE」が観光目的ではなく、震災を通じて再発見された神戸の魅力を発信するためのものであったことだ。また、浮き出るVer.の「BE KOBE」は存在を知らなかった。母は被災者で、数回話を聞いたことがあるが、想像できないほど恐ろしいものだったということが伝わってきた。タグの存在は、ドラマで知っていたが、黒タグと赤タグの境界でもめているシーンもあったため、そこは医師や救急救命士の判断にゆだねるしかないと思った。また、別のドラマで、終末期がん患者に麻薬性鎮痛剤を投与するシーンで、患者の家族も判断に迷っている様子だったため、人生会議が重要だと感じた。私は幼い頃、祖母をがんで亡くしているが、どのような最期だったかは知らない。だからせめて、どのようなことを希望していたのかは知りたいと思った。	情報分析力	課題発見力	今回の講義で追及されなかった倫理に関わる医療行為もあると知った。
最近ニュースでよく取り上げられたり、議論の対象になったりする「大規模災害時のトリアージ」や、「安楽死・尊厳死」の問題について、専門家の視点からの意見を聞くことができた。また、医療倫理はとても昔から存在していたが、今の社会とは状況が違い、時代によった検討をする必要があると分かった。科学倫理は医療以外の科学分野でも必要なことなので、計画・実験などのときに、それに配慮した活動をしていきたい。	情報分析力		話を聞き、大事な部分を読み取る。
医療は僕たちの生活とも密接に関わっているものであり、そこにもし倫理が存在しなければ、僕たちの生活は容易く脅かされてしまう。人の命に関係することは、絶対に重く受け止めるべきだし、常に考え続けていかなければならないと思う。講義中にもあったが、倫理とは紀元前4世紀には既に考えられていたものである。これは、人の生命に対する考え方は、今も昔も変わらないということであろう。僕がこれから生きていくうえで、研究をするときでも、そうでなくても、「生命」という不確かな存在と、真摯に向き合っていきたいと思う。	情報分析力・課題発見力	課題発見力	講義を聞いて、生命とどう向き合っていくかをk何が得たこと。
今回の講義では、知っていたり聞いたことがあったりする言葉も多くあったので分かりやすかった。また、災害時の傷病者への対応についてなど、知らなかったことも知れたので、何かあった時に役立てられるといいなと思う。自分は医学系の道へは進もうと思っていないけれど、興味のある内容も含まれていたのも、面白かった。クローンの話題はとても興味深かった。実際にクラスの人達と議論してみたいと思った。昔あった裁判の話も出てきたけど、医師が患者の意見を大切に尊重するのはとても良いことだと思う。	情報収集力・情報分析力・課題発見力	課題発見力・計画立案力	講演をきくこと
安楽死や尊厳死について、人によって様々な考え方があったり、大きな治療などを受けるときなどにおいて、一番重要であるのは、本人の合意であるということが分かりました。近年は科学技術の発展によって、新たな倫理的問題も出てきており、答えを導き出すのは簡単ではないですが、自分に関わりのあることとしてよく考える必要があると思います。		共働力	

「すべての命は平等である」とよく聞く。一方、Triageは患者の命に“優先準備”をつける。処置不能と判断された場合、生きていても治療は受けられないことになる。「助けられる命を助けるため」なので、仕方のないことであるし、画期的なシステムだと思う。助かる命も増えるだろう。しかし、実際に自分がかもしくは家族など身近な人が“黒タグ”をつけられてしまったとき「まだ生きてるのに、助かるかもしてないのに」と納得できないと思う。ICが子どもでも受けられるという点に安心した。裏で話が進んで訳も分からず治療を受けるのは恐怖を感じる。自分の意志で決定できる権利、真実を知る権利は常に保証されるべきだ。患者の意志と家族の意志がくいちがったり、患者が死を望んだりした場合、どう行動するのが正解なのか、今までも考えたことがあるが、私は今回の講義でも答えを出せなかった。医師の目的、存在意義が何なのかまで揺らいた。また、将来、クローンの人権はどうなるか、考えると堂々巡りをしてしまう。	情報収集力・情報分析力		講義を聞く、他の人の意見を聞く、自分なりに考える
今回の講義を通して、最近よく話題に挙げられているインフォームド・コンセントなど、科学の倫理の中の、特に医療の倫理について学習した。以前の医療では、患者に病気や、その治療方法についての十分な説明をしないことが多く、また、その目標としては、「治す・長生きさせる」ということが根底にあったが、現在ではクオリティー・オブ・ライフや、インフォームド・コンセントの考え方が取り入れられた。QOLの考え方の出現によって、尊厳死などの議題があらわれる中でも医者が、患者とのよりよい関係を模索するためのコミュニケーション能力の重要性は変わらないものがあると思う。	情報収集力・情報分析力		受講時
個人的には、医療の道に進むことを考えていないが、医療には興味があったし、倫理に関しても知っておきたいことが多かったので、良い時間になったと思う。今年高校生になってから何回か医学系の講義を受けたことがあるが、話す方々によって違った生命に関する考え方があって、非常にためになった。脳死について考え始めたのは中学3年生くらいで、それは去年のことだったが、今日もそうだし脳死を死とするかについての議論はしばしば聴くので、いつその状態に自分もしくは身近な人になるかも分からない社会なので、しっかり家族と話し合って結論づけておきたい。	情報分析力		尊厳死などを実際に考え、その状況から想像の上だが判断した。
災害が起きたときや、思わぬ事故が起こった時に備えて自分の死に方を話し合っておくことの大切さが分かりました。私は将来医療に携わりたいと思っているので、今日の講演は自分の将来を考えるうえでとても参考になりました。また、寿命の短かった昔は医療＝延命だったのが平均寿命の延びてきた今は必ずしもそうでないということに考えさせられました。自分の将来の死に方を想像するとともに、医療人としてはどう行動するべきなのか、よく考えていきたいと思います。	情報分析力・課題発見力	親和力	講義を聞いてメモをとるとき。講義の内容について友達と話し合ったとき。
私は将来、医療の道に進みたいと思っているが、しっかり説明して同意することの必要性がよくわかった。研究者の道に進むにも倫理は絶対必要で、自分の研究を将来的に見て、人々に説明することもあるのだと分かった。相手としっかり話し合っ、お互いに同意することを大切にしたい。	情報分析力	親和力・感情抑制力・計画立案力	

今回の科学倫理の授業を聞いて、特に印象に残ったのが横浜地裁の判例です。昏睡状態の患者の家族が要請したので患者を亡くならせたけれども本人の了解(意識がないのに)をとらなければ有罪になることを知りました。自分は、患者の希望があれば病名を伝えないことも選択肢の一つとしてあると思っていましたが、それにより、このような事が起こったことを考えると、やはり、自分の身に起きていることを、覚悟をもって意思疎通を図ることの方が大切なように思えてきました。病名を患者に伝えてから、一緒に打開策を立て、患者に安心してもらえるようにするには、単に知識だけでなく信頼関係が必要で、倫理の問題には、医学よりむしろ、そちらの方が関わっていると知りました。	課題発見力	感情抑制力・課題発見力	
昔の主な考え方であった、長く生きるための医療は、今や、生活の質を上げるということを、考え方の基礎としていることがよくわかりました。これから、今日のことをふまえて、科学していきたいです。			
今求められている医者は、ただ単に腕が良いということではなくて、さまざまな人の意見そして患者の意志を尊重することができる人なんだと思った。私はQOLすなわち、何歳に死んでもいいけど、死ぬときには満足した気持ちで死ぬことが唯一の揺るがない人生の目標である。だけれども、私の考え方とは全く異なる人はたくさんいるわけで、死に対する価値観が千差万別であることを医者は認識する必要もあると思うし、我々一般人にもよりよい医療になるための努力は必要だと思う。現代の科学は「こういう世界のために、こういう世界をつくるために。」ということを実現するために大きな役割を果たしているが、やはり、倫理だということを忘れずに、科学をしていくことが大切なんだと再確認できた。	情報分析力		